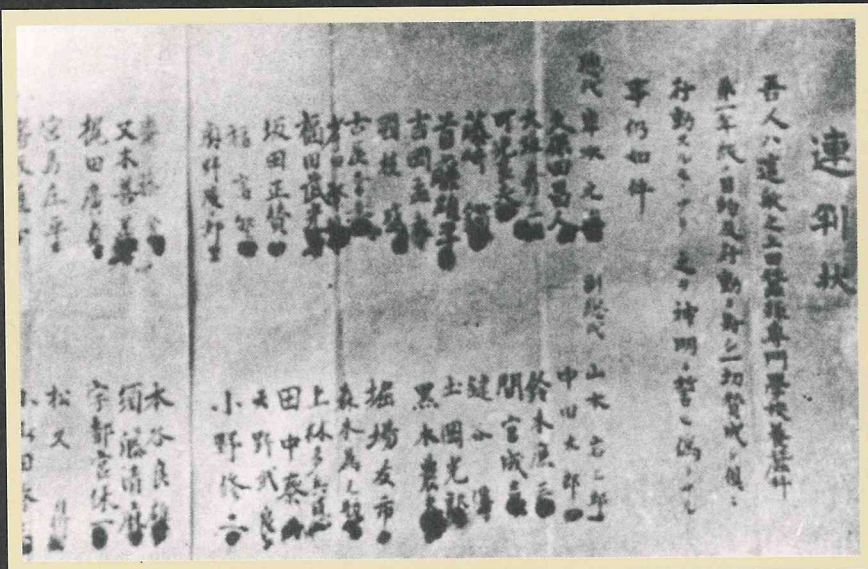


本学の主なできごと

校長排斥同盟休校



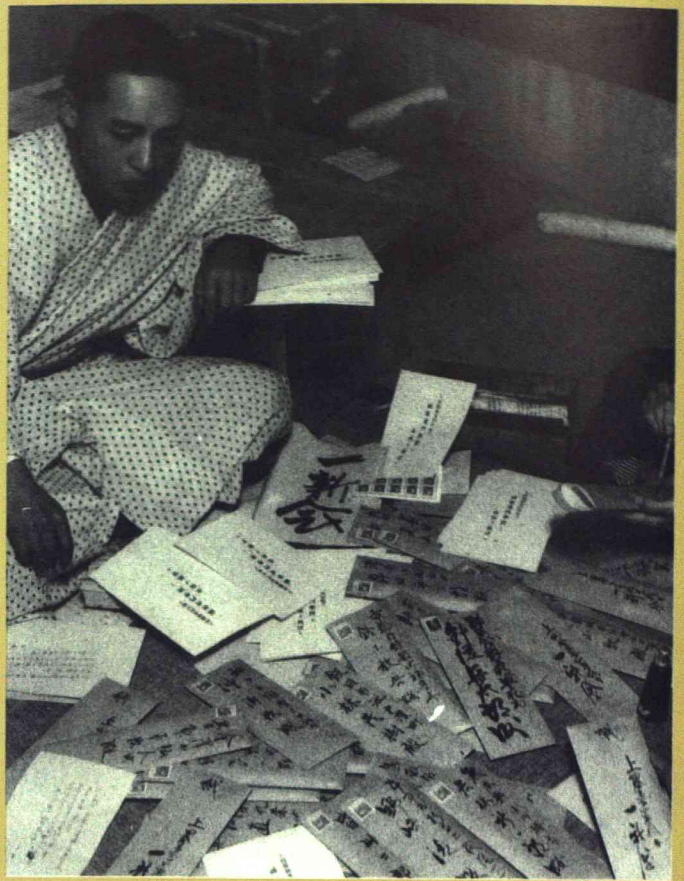
校長弾劾同盟休校起る 大正7年2月8日に養蚕科1年39名が、教授の人事問題に端を発し、血判して革新団を結成、学校の現状を不満として改革を要求し同盟休校に突入した（大正7年）



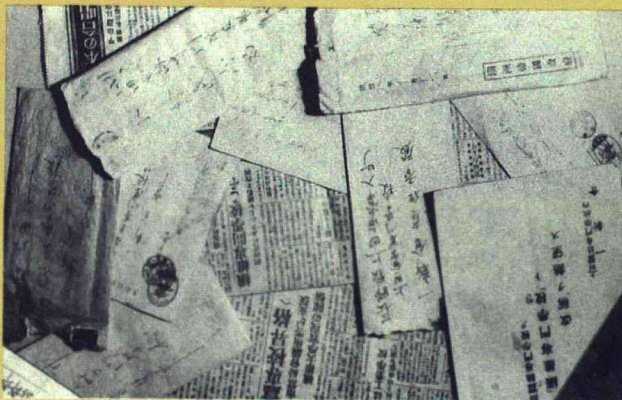
校名変更事件 昭和初年に隆盛を極めた蚕糸業も、昭和12年頃から急速に落ち込み、当時の製糸科学生は深く悩んだ。その末に狭い蚕糸から広い繊維への脱皮をはかろうとして、昭和16年10月、製糸科3年生33名が「一新会」を結成して校名変更運動を展開した。全員停学処分を受けたが、結局その後3年で、上田織維専門学校と改称された。

校名変更事件

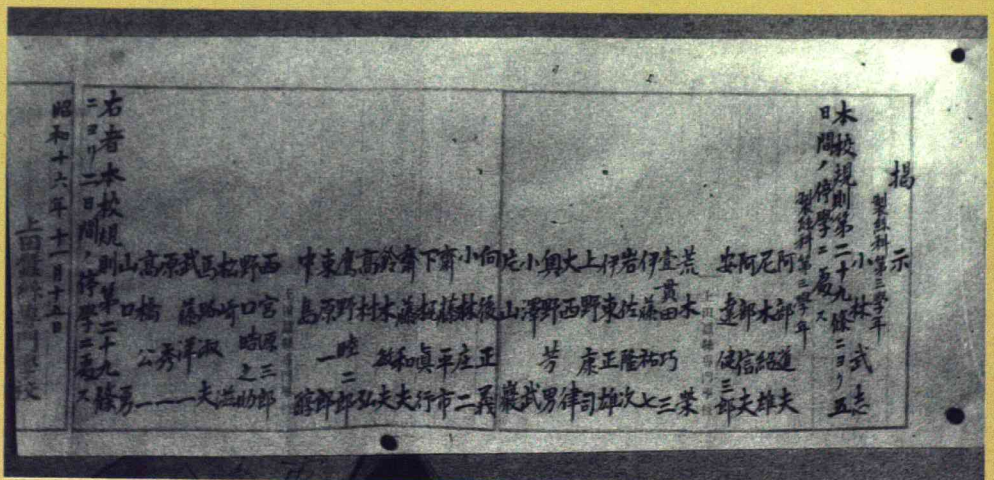




11頁にわたり切々と訴える要望書の発送
(約1,000通)



校名変更事件のニュース
新聞紙上を賑わす



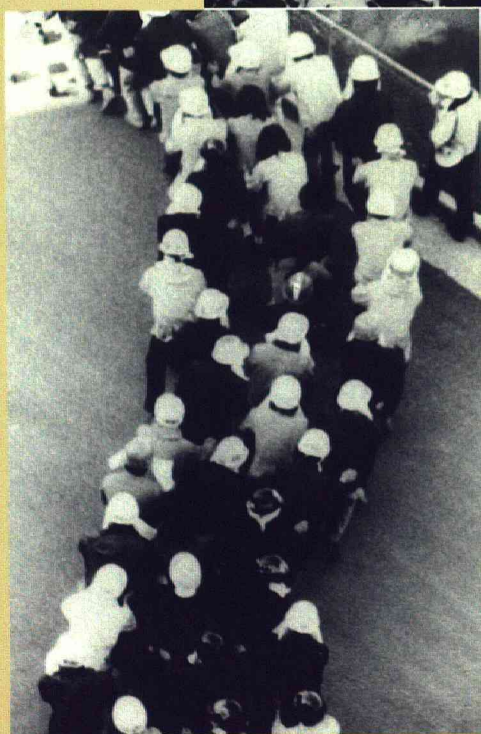
停学処分を受けた一新会メンバー
しかし、この事件の3年後に繊維専門学校と改名された



繊維共闘会議結成
(昭和44年10月31日)

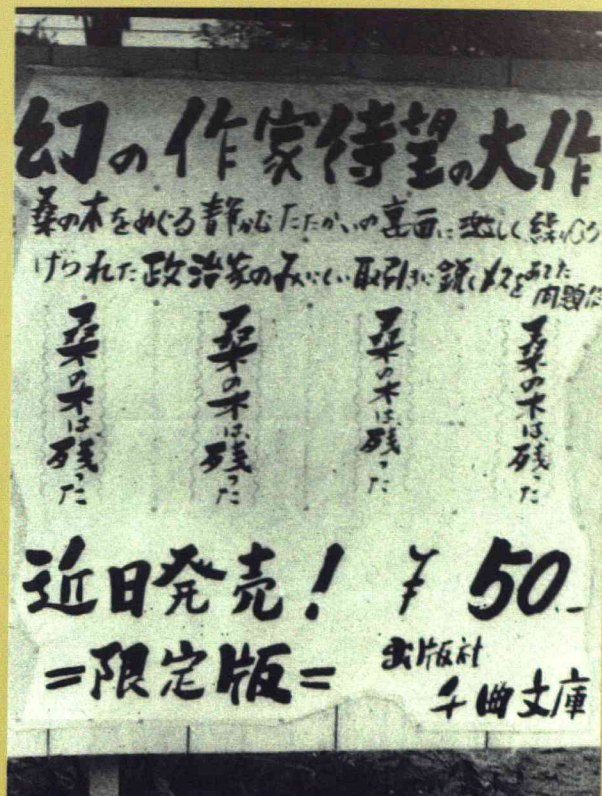


応援に押し寄せた他学部学生

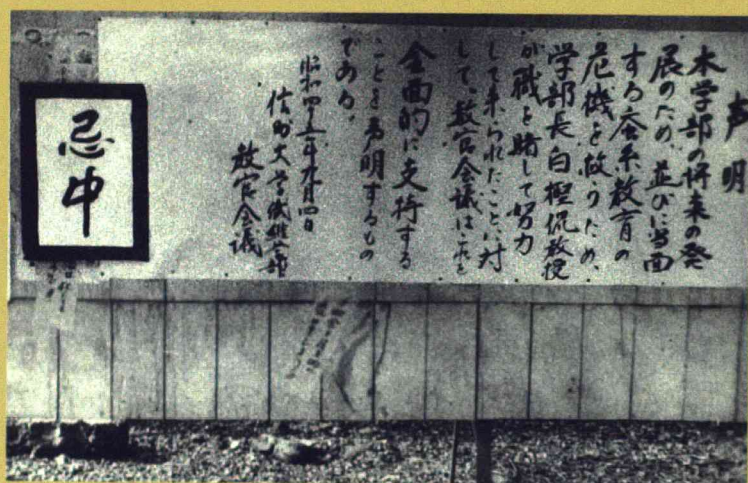


学内のデモ行進 学生荒れる

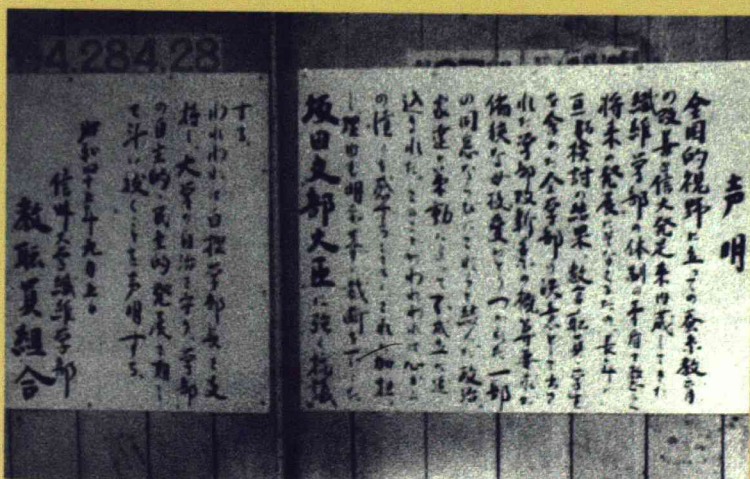
蚕糸統合見送る 三大学の蚕糸を東京に統一し、理想的な蚕糸教育の実現が企てられた。しかし、環境その他の事情により統合は見送られた。残った養蚕学科は改組発展し、現代社会の最先端の要請に応える応用生物科学科として、有為な卒業生を社会に送り出している



桑の木は残った 学生自治会の貼り紙 (昭和45年9月)



教官会議の声明 ただし、中の忌中の貼り紙は声明文の内容危うしと見て誰かが貼ったものである



教職員組合声明 文部大臣に対する抗議声明文

菅平遭難事故（昭和45年）

9ヵ月ぶり 遺品発見 菅平で遭難の信大生

繊維学部あげて友情の搜索

遺体きつと近くに

65歳の白樫学部長も参加



圖 理言人



橋村 敏彦さん

東京關（八雲町）で昨十一月末、行方不明になっていた大生入の遺体のリュウ・サウ・シが、十日、カカヨと大生入の教員名の横の欄で発見された。同族一行は驚き見舞に同族会本部付添と二人道徳を打たれ、花束を添えて喜ぶが、二人の顔は、れまゆ暗くなり落ちたが、まき非がかりながら、たけに、遺品の発見された二日は、必ずしに遺体があつたといふ、と、きう、十日、また、たの、二人は、同族に秀をひく。

この字は、古市町中宮田、徳大寺藩家老櫻井親忠・親忠の次男と云ふ大阪府河内郡三島川上町南原、岡部四郎、磯崎伊藤彦之助と云ふ大阪府東区阿倍野目、二人が同年十一月二十八日、下宿を出立するや不幸になった。十二

月日になって戻さぬの下宿で二十一日、豊平高麗の櫻井色にのぞり三十日に上麻井松屋に出る」といふ登山道のメモにもなっており、下宿などの連絡で同姓異字郎が「学生入分豊平高麗」で遺書に「大じしい」と玉匣に記し出て

が、一・五坪のほどでガスにはま
れ、二人の足よりはまゝたつ
かぬが、

さうに六日は家族の監視で、
リリナターが出勤、空から伊豆
の二二八が、と米子木動園辺
りへ、

一帯の捜索が終つたが、悪天
が、

そして二人が避難してから九
月來きて秋の渡船がやうで、
間大福庵で、はだれうと、
なく、運体がつかなく、は
た、

の家の厚かばないところ、と

このため四日の上田県、雪平・桑の丸瀬沼地区より雪平側から約五十人、一方、瀬沢側からは上高井郡坂井(須賀谷市)の消防員で四人が出動して二人を捕えた。

ていた大生一入の遺品がリュウ・クサツが、二十六日、九方銀行に遺品が見られ、同銀行米本庫附付近で一人の遺体式を臨んで繰り返されたが、まるで手がかりがなかったに、遺品を、二十五日、あつたて、二人の遺体遺品に全をあげた。

に呼びかたしたる、我輩も十
五人を連れた、若岡等出
張の口には参加事し出た。
さうこれを告げた百原俊孝は
六十五歳の體となつて、先
づ其の爲めに奔走して、部
會で友達のところから、部
費として二萬圓と云ふこと
になつてゐる。

きよ二十日の朝には藤
員約五十人の隊があるが、男
さん、横村さんの父、藤田さ
んの父、藤田さんのお母さん
の忠告に照準する地方士・

夜索



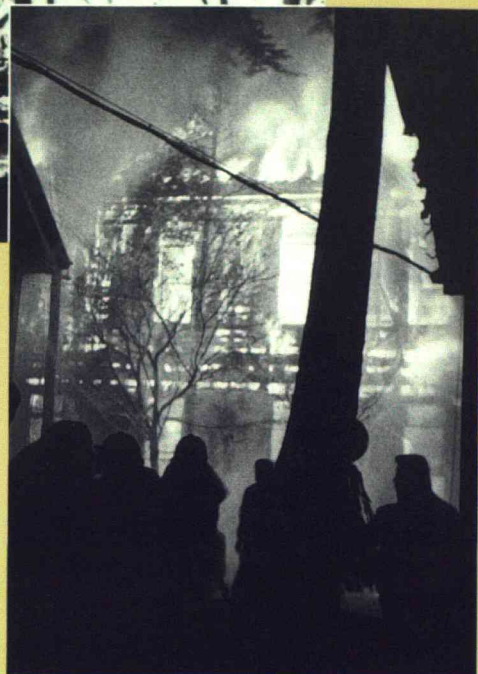
茶毘に付す 遺品発見3日後に遺
体を発見、現場近くで茶毘に付し
た(昭和46年)

遺品発見 昭和45年11月末繊維機械学科四年生の原茂、橋村敏彦両君が根子岳で遭難し、9ヶ月の捜索の結果遺品等の発見を伝えるサンケイ新聞（昭和46年）

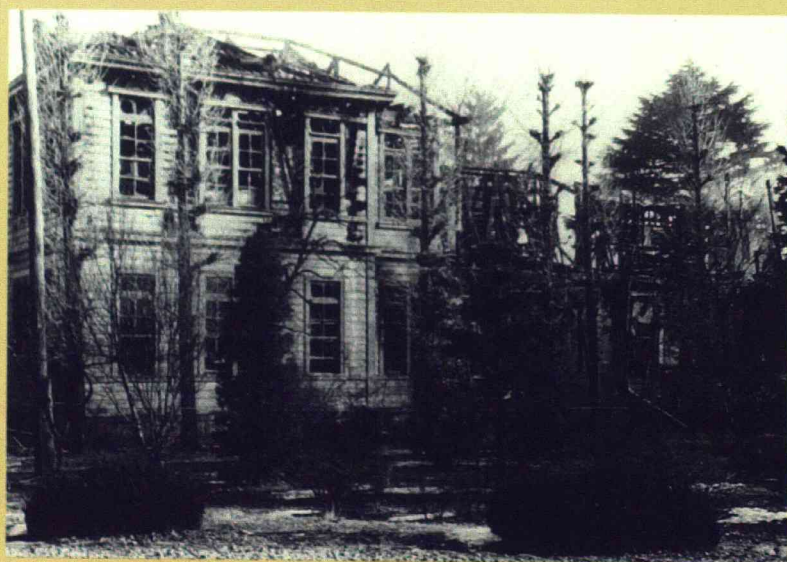
旧本館焼失



焼け落ちる旧本館 厳冬を吹きとばす勢いで延焼・焼け落ちる木造旧本館（昭和37年1月26日）



燃えさかる旧本館 必死の消火作業も水の泡（昭和37年1月26日）



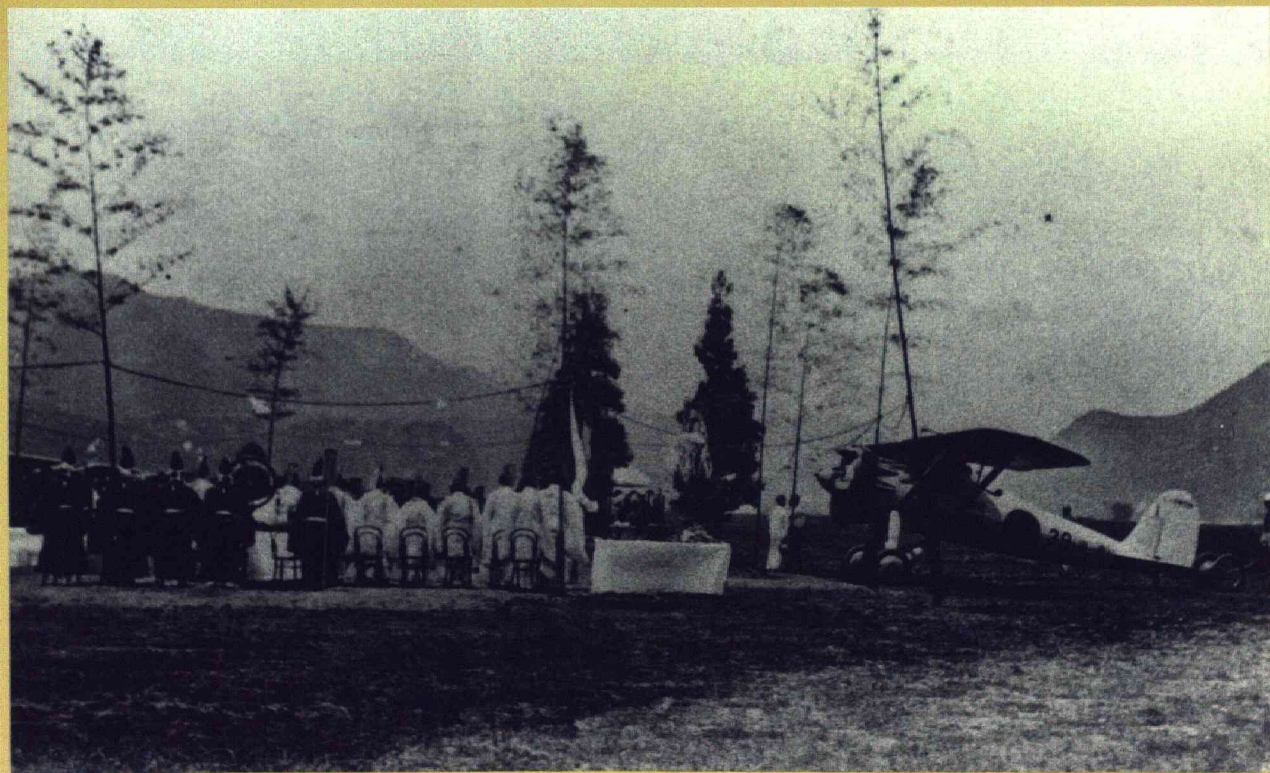
無残な姿をさらす旧本館 左袖だけがわずかに現形をとどめた。原因不明のまま十数年後放火と判明（昭和37年1月27日）

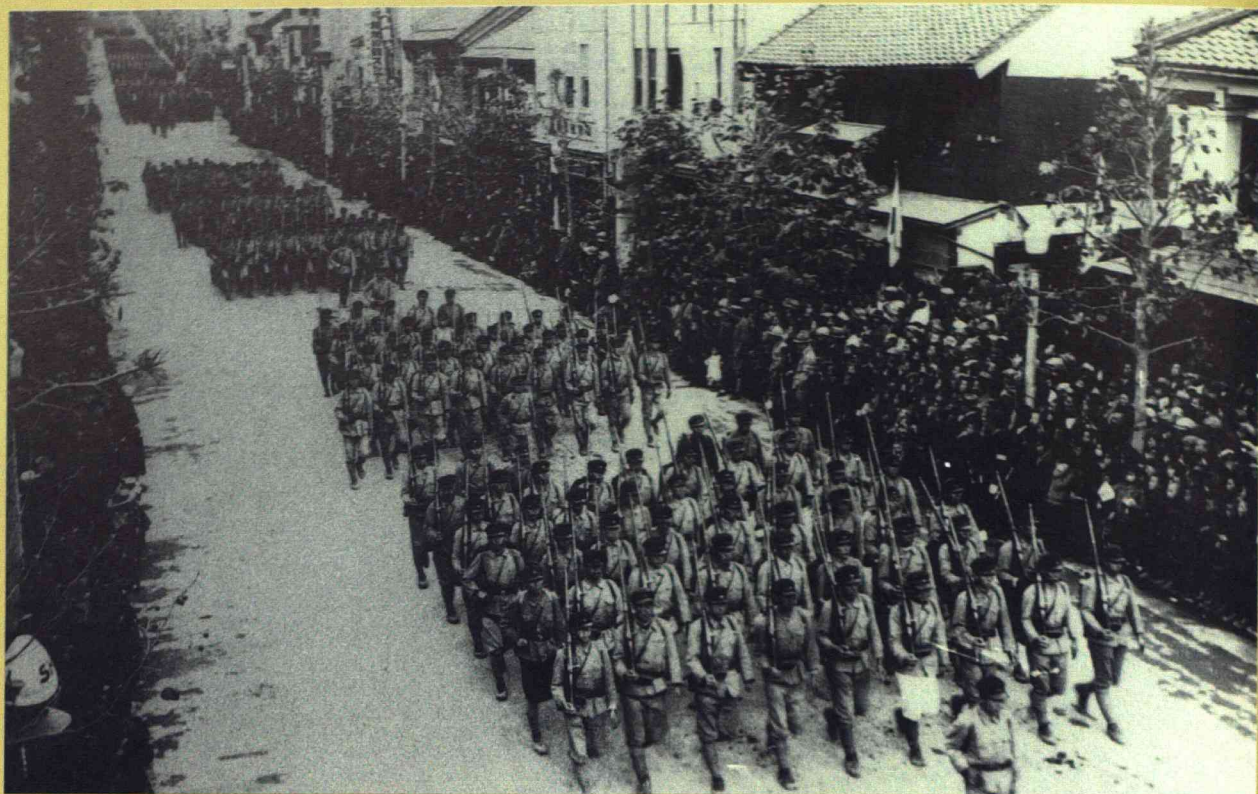
菅平ダボスキー場開墾 馬鈴薯栽培
(昭和17年)



菅平で記念植樹 (昭和16年)

愛国号献納式
教職員も汗の献金に参加 (昭和12年)





関東大演習に参加 高崎市内で
兵分列行進（昭和8年）



軍事演習その(1) 新鹿沢にて
（昭和9年）

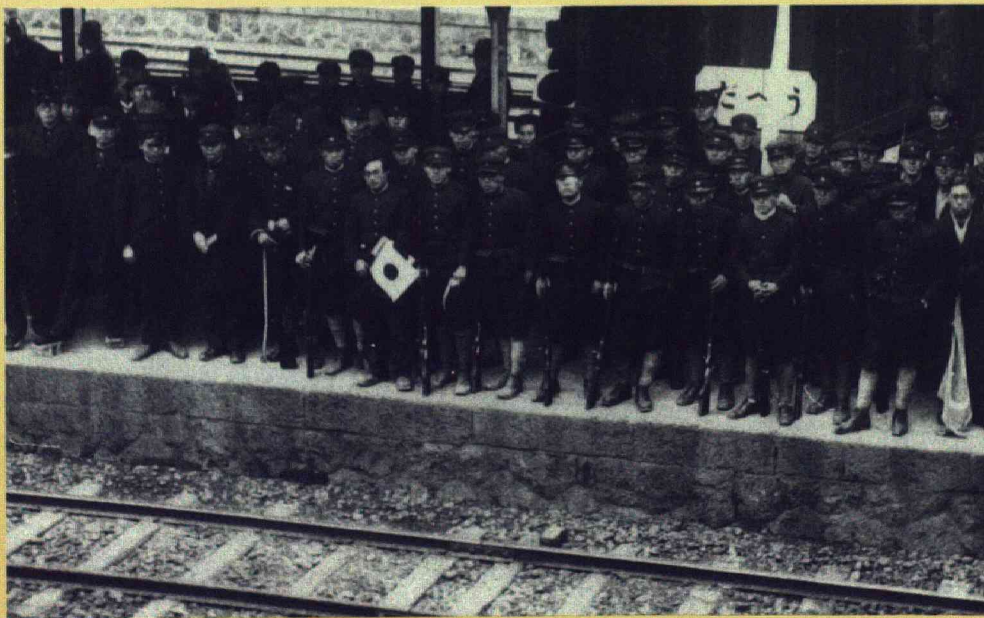


軍事演習その(2) 軽井沢にて
（昭和16年）

勤労作業
(昭和17年)



学徒出陣 戦争熾烈を極め、学窓
をあとに学徒の出陣と共に、教官
1名、職員1名に召集令状下る
(昭和18年1月18日)



出陣学徒見送り
上田駅頭にて
(昭和18年)